



神戸らしく洗練されたファサード  
いまも居留地の街路空間は、緑・花・店が一体となって美しい都市風景を創り出している。



重厚な柱が特徴の神戸朝日ビル（居留地51番）  
かつての朝日会館は神戸の文化拠点。現在は多彩な店舗が入る25階の高層ビルとなった。 [1934年建築/設計 渡辺 節]



厳然とした佇まいの神戸市立博物館（居留地24番）  
外国との交流をテーマに常設展示。戦前の神戸を代表する旧横浜正金銀行神戸支店ライトアップが美しい。 [1935年建築/設計 桜井小太郎] 国登録文化財  
TEL 078-391-0035 神戸市中央区京町24 開館時間10:00~17:00（金曜は～19:00）  
月曜定休（休日の場合翌日） <http://www.city.kobe.lg.jp/museum/>

神戸旧居留地境界  
まち歩き案内

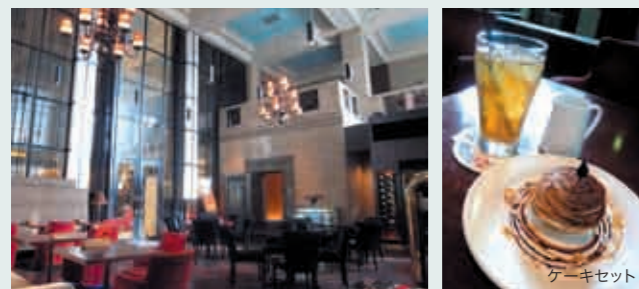
阪神・淡路大震災被災者の鎮魂のために開催神戸ルミナリエ  
外国人と日本人がともに利用できた居留地の「内外人（ないがいじん）公園」、現在の東遊園地を中心に開催される光の祭典で、2009年に15回目を迎えた。  
開催 毎年12月初旬  
会場 旧居留地及び東遊園地  
<http://www.kobe-luminarie.jp/>



写真提供：神戸新聞社



カフェ・ド・COBE旧居留地十五番館（居留地15番）  
震災後の復旧と同時にオープン。元アメリカ領事館らしい意匠を凝らした内装も復元され、レトロで優雅な空間を再現。国重要文化財にも指定されており、その中でレトロな洋食メニューを味わうことができる。  
TEL 078-334-0015 神戸市中央区浪花町15 営業時間11:30~22:00  
月曜定休（月曜祝日の場合火曜） <http://www.to-ho.co.jp/cafe/>



イーエイチバンク E.H BANK（居留地9番）  
銀行時代の面影を残しつつ、今風のカフェダイニングとして再生。ランチ、カフェとしての利用はもちろ、始発まで営業するナイススポットとしても人気が高い。  
TEL 078-331-6553 神戸市中央区海岸通9番地 神戸チャータービル1F  
営業時間【月~木】11:30~翌3:00【金・土・祝前】~翌5:00【日・祝】~翌2:00 無休  
<http://www.kuchikomi-kobe.com/kk000008/>

神戸のお菓子

ボーム・ダムール（一番館）  
長時間で煮詰めた新鮮なリンゴを、ほろにがびターチヨコでコーティング。甘いものが苦手な方にもおすすめ。  
【本店】  
TEL 078-391-3138  
神戸市中央区元町通1-8-5  
営業時間10:00~18:30 水曜定休



ウィリアム（MARUO）  
元町にある喫茶店の人気メニュー。リンゴがまるごと1個入ったパイ。お持ち帰り可。  
TEL 078-331-0575  
神戸市中央区元町通3-9-22  
営業時間8:00~22:00  
第1・第3水曜定休



居留地を代表する商船三井ビル（居留地5番）  
正面の旧大阪商船神戸支店はアメリカ風オフィスビルの草分け的存在。  
[1922年建築/設計 渡辺 節]

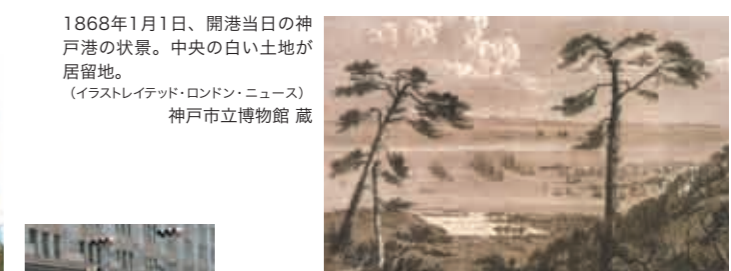
明治期の商館の面影を残す居留地十五番館（株）ノザワ所有）  
下 阪神・淡路大震災で崩壊  
右 再建された現在の姿  
[1881年頃建築/設計 不明]  
国重要文化財



写真提供：神戸新聞社

ちの初代内閣総理大臣伊藤博文（ひろぶみ）の明るい性格に負うところが大きいともいわれています。  
明治維新に続く官主導の重い時代にあつて開放的だった県庁や市役所は、伸びやかで自由な市民をも育てました。加えて、神戸は横浜と同じく城下町の歴史と伝統を持たない近代に生まれた都市。そのため、国内はもろろん世界からも進取の気性に富んだ人々が移り住んで活躍し、ひととき鮮やかな個性を放つ国際都市となつたのです。  
その後、明治・大正・昭和にかけて、神戸は国際貿易都市として、また鉄鋼や造船といった近代産業都市として飛躍的な発展をするも、第2次世界大戦の大空襲で旧居留地（居留地は1899年に日本に返還）をはじめ神戸の都心は壊滅しました。その大きな痛手から戦後半世紀を費やして立ち直り、めざましい成長を遂げましたが、1995年1月17日の明け方、神戸はマグニチュード7.3という、かつて経験したことのない大地震に襲われました。阪神・淡路大震災です。旧居留地に唯一残っていた国の重要文化財指定の木造の洋館十五番館も瞬時に崩壊しました。しかし神戸の街中が瓦礫に埋まるなか、歴史を伝える旧居留地のビルの多くは逞しく生き残り、その後の復興に確かな足がかりを提供したのです。

**CHECK!**  
神戸市復興計画のシンボルプロジェクト『HAT神戸』について17ページより特集しています。



1868年1月1日、開港当日の神戸港の状況。中央の白い土地が居留地。  
（イラストレテッド・ロンドン・ニュース）  
神戸市立博物館 蔵

女性のファッションセンスは昔も今も変わらない。（明石町筋）



海岸通のチャータービル（居留地9番）  
イオニア式（古代ギリシア建築の列柱様式のひとつ）の円柱がならぶ英国の銀行ビル。  
[1938年建築/設計 J・H・モーガン]



飾られた居留地9番のプレート

今ではファッションスクエアやレストラン、カフェとして甦り、神戸の中心街にふさわしい海外のトップブランドの店舗も次々と出店しています。開港以来、常に洗練された感性で磨かれ続けた旧居留地はその歴史を受け継ぎ、日本最先端のファッションタウンとして再び甦ったのです。  
また震災復興のシンボルとして毎年初冬に旧居留地で開催される「神戸ルミナリエ」は、イタリアの感性と技術を駆使したきらめく光の祭典で、訪れる数百万の来場者を魅了し、震災に打ちひしがれた人々の心に希望の光をともしています。  
全面に広がる青い海、街の背後に溢れる緑の山並みにより、世界で最も美しい都市のひとつともいわれる神戸。その都市のコアとして、旧居留地はこれからも鮮やかな光を放ち続けていくことでしょう。